

近刊情報システム 削除処理の流れ

2011/2/14 日本出版インフラセンター(JPO)

区分	No	ケース	送り手の処理・エラー内容	近刊情報センターの処理	受け手の処理
ONIX対応	1	正常	データを送信。	送信ファイルが無かった版元は、前回アップロードされたファイルが使用される。 発売日予定日8日以降のデータは削除する。 例えば1/1に発売予定日が設定されている商品データが1/8以降に送られてきた場合、センター側で削除する。	任意
	2	アクシデントによる発刊中止	発刊中止の商品については、削除フラグを立て、かつ管理画面よりメールを受け手に送る。(最低1回はフラグを立て、メールを送る。複数回可能。)	特に無し。	各自のデータから削除。 ①削除の連絡をメールで受け取る ②削除フラグが立ったデータを受信 いずれかに該当する場合受け手は「データが削除された」とみなすものとする。
	3	エラー	データを送信したが項目不足等が原因で、1部の商品でデータエラーが発生。	エラーが発生した商品を除く、正常な商品データのみを使用する。 送り手にエラーの連絡メールを送信。	任意
	4	〃	人為的ミスで1度送信した商品を、送信し忘れた。 毎回全件データを取得する受け手には削除されたと判断される可能性もあるため、受け手へメールで連絡をする。	特に無し。	任意
	5	〃	xmlのパーズエラー。 (タグの閉じ忘れ、XML予約語の変換し忘れ等が原因で発生)	全件エラーとなるため、前回アップロードされたファイルを使用する。 送り手にエラーの連絡メールを送信。	任意
WEB入力	6	正常	特に無し。 発売日予定日8日以降のデータは管理画面より閲覧できなくなります。必要なデータは事前に管理画面の「ONIXファイル出力」よりダウンロード下さい。	登録されているデータを送信。 発売日予定日8日以降のデータは削除する。	任意
	7	アクシデントによる発刊中止	管理画面よりメールを受け手に送る。 書誌管理画面の「削除」ボタンより該当データを削除。	削除フラグを立てた、次回の処理で1度だけ削除フラグを立てる。次回以降は削除フラグは送らない。 処理管理画面から該当データを削除する。	各自のデータから削除 ①削除の連絡をメールで受け取る ②削除フラグが立ったデータを受信 いずれかに該当する場合受け手は「データが削除された」とみなすものとする。

※送り手は各社全件送信することとする。差分データは近刊情報センターで生成する。  
 ※1度削除されたデータでも、後に同じISBNでデータが送られてくる可能性がある。  
 ※送り手と受け手ともにデータの送受信タイミングは任意とする。  
 (但し送り手は変更が発生次第出来る限り早くデータを送信した方が良い)